備前国分寺跡
両宮山古墳

史跡だより

第23号
赤磐市教育委員会

両宮山古墳墳丘裾保存整備工事が完了しました！

地元の皆様のご協力をもちまして、平成29年度から令和6年度までの8年にわたり行ってきた、両宮山古墳墳丘裾保存整備工事がこのたび完了しました。

両宮山古墳は、墳丘全長206メートルの大形前方後円墳で、岡山県内では造山古墳・作山古墳に続き、3番目の大きさです。墳丘の外側に二重の周濠がめぐり、現在外濠は水田の地下に埋まっていますが、内濠は農業用のため池として利用されており、昭和2年に国指定史跡となりました。

長年の内濠波浪による浸食で墳丘裾が削られつつあるため、これ以上の浸食を防ぐための保存工事を実施してきました。また、中堤側でも浸食や崩落があったため、平成18・19年度に保存工事を行っています。

今回の工事は、貴重な歴史遺産を次の世代へ繋げていくための大切なものです。今後も大切な文化財を守っていくため、皆様のご協力をよろしくお願いします。見学の際は、堤（外側）の上からご覧いただけますので、ぜひ足を運んでみてください。

水をたたえた内濠と前方部（南から）

ドローンで撮影した工事完了直後の古墳

新たな市指定文化財のご紹介！！

赤磐市和田の大師堂に安置されていた「木造弘法大師坐像（木喰五行作）」が令和6年7月2日、新たに市指定文化財となりました。

木造弘法大師坐像は江戸時代に全国各地を旅して仏像を奉納した僧・木喰（木喰五行）が、寛政10（1798）年に岡山県に滞在した際に制作した仏像です。

像は一木造りで、別材の光背が付属します。像の背中と光背の裏面に、木喰の墨書が明瞭に残っています。保存状態は極めて良好で、当時の歴史や信仰を今に伝える重要な文化財です。また、岡山県内初発見の木喰仏であり、木喰の研究や美術的にも貴重な資料といえます。

赤磐市指定文化財は、この木造弘法大師坐像を合せて58件となりました。現在は岡山県立博物館に寄託されていますが、木喰仏が発見された大師堂には、写真付きの解説板を設置していますので、ぜひお立ち寄りください。

大師堂と解説板

木造弘法大師坐像

赤磐市教育委員会　令和7年5月13日発行
〒709-0816　岡山県赤磐市下市337番地　　TEL　086-955-0710
URL　https://www.city.akaiwa.lg.jp/bunkazai/index.html